

## 哲学・思想研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学	-	-	1	1	1	1	2	1	1
	(若干名)	(若干名)	(-)	(1)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	6(6)		-(2)		-(1)		1(6)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			受賞・表彰等			
	18(25)		22(2)			-( )			
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	( )			
退学者	2	-	-	-	-	2			
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	( )			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・( )は前年度の数値を、は外国人留学生を内数で示す。

### 1 哲学・思想研究科の活動

文系大学院改組に伴う人文社会科学系研究科発足2年目に入り、本哲学・思想研究科では旧研究科として3年次以上の学生を対象とした。退学者には、課程修了期限には間に合わなかったが、平成15年の夏までに学位取得見込みのものもあり、研究職に就くものもあり、研究科の終了に向けておおむねよい方向で進んでいる。

### 2 教員の教育業績評価の状況

教育業績評価として 課程修了者数、学術振興会特別研究員数、中間評価論文合格者数が指標となる。

課程修了者数は0名であるが、学位授与が期限に間に合わず、平成15年7月に授与予定のものがある。

学術振興会特別研究員採用(PD)は0名であるが、(DC1)1名と(DC2)に2名、計3名採用された。学生数が最小の研究科であるが、文科系としては最大の採用数である。

中間評価論文提出者は1名で全員合格した。

### 3 自己評価と課題

学位取得が課程修了の時期に間に合わなかったため、本年度は課程修了者を数字としては出せなかったが、内容的には通常通りの実績である。とくに学術振興会特別研究員を多く出せたことは教育面において非常に評価できるものである。平成14年度より学生の業績について細かく調査して、教官にフィードバックを行い、学生指導の便に付している。